

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く「2009 年夏のボーナスと家計の実態調査」

**ボーナス「減った」(53.6%)が半数超。夫の小遣い 2 割カット！**

**平均手取額は 65.5 万円(調査開始以来最低/昨夏より約 10 万円減)**

**主婦の“へそくり”にも影響！平均金額は 337.2 万円(昨夏より約 19 万円減)**

**臨時ボーナスをあげたい人は、「イチロー」「オードリー」「辻井 伸行」。**

**昨年以降の“手作り弁当”転向は 4 割強。「ほぼ毎日」「節約のため」持たせる！**

損保ジャパン DIY 生命保険株式会社(代表取締役社長: 澁谷 達雄)では、全国の 20~50 代の、サラリーマン世帯の主婦 500 名(各年代毎 125 名 平均年齢 39.6 歳)を対象に、「2009 年夏のボーナスと家計の実態」をテーマとしたアンケートを、2009 年 6 月 12 日(金)~15 日(月)に実施いたしました。

ボーナス手取額の増減を昨夏と比較すると、「減った」が半数を超え、平均手取額も昨夏から約 10 万円減で調査開始以来最低の 65.5 万円となりました。家計も「苦しい」との回答が夏の調査では最悪の 6 割超となり、大きな痛手を被っていることがうかがえます。また、不況の影響を受け、サラリーマン世帯のランチ事情にも大きな変化が見られています。夫の手作り弁当に関する質問では、手作り弁当を持たせている家庭の 4 割超は、不況といわれるようになった昨年从今年にかけて手作り弁当に転向し、「ほぼ毎日」「節約のため」に持たせているという結果になりました。とくに、20 代・30 代の弁当派が多く見られ、昨今の「弁当男子」ブームも相まって、今後の増加も予想されます。

主婦の懐事情にも不況の波は押し寄せているようで、へそくり(夫に内緒の資産)の所持率が調査開始以来、初めて 4 割を下回る結果となりました。また、平均へそくり額も約 337 万円と昨夏より約 19 万円も減少し、減少理由にも「不況による赤字の穴うめ」が多くあげられています。

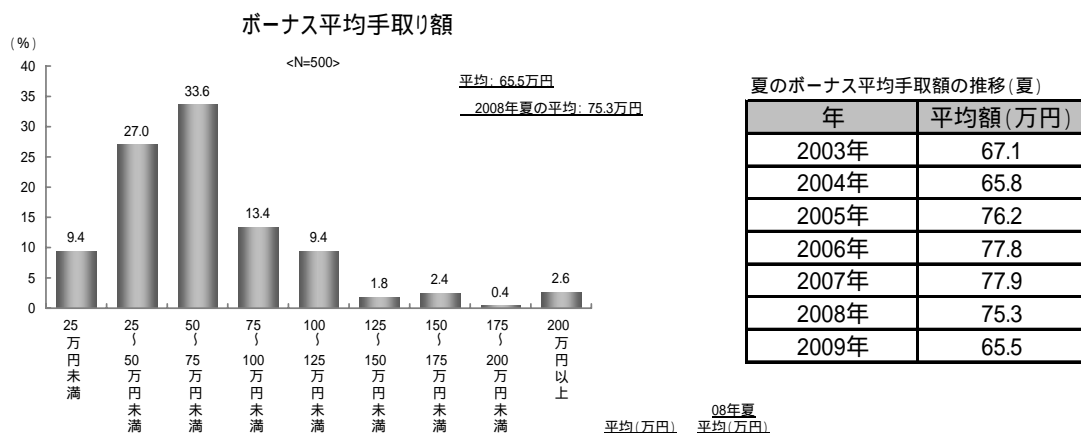
第 18 回損保ジャパン DIY 生命アンケート「2009 年夏のボーナスと家計の実態調査」の結果概要は、以下のとおりです。

(2009 年夏のボーナス)

- 夏のボーナス「減った」は 53.6%、「増えた」は 20.6%。平均手取額は 65.5 万円。  
<昨夏> 「減った」:26.0% 「増えた」:37.0% 平均手取額 75.3 万円 昨夏より 9.8 万円減
- ボーナスの使い道は、「預貯金」(51.6%)が突出。
- ボーナスが減って“諦めた”のは「プチ贅沢」、ランクを下げて行ったのは「衣料品の購入」。
- ボーナスの中から夫に渡した小遣いの平均は、9.8 万円。昨夏平均 12.3 万円から 2 割カット。
- この夏、臨時ボーナスをあげたい人は、「イチロー」、「オードリー」、「辻井伸行」。
- 生活は「苦しい」(61.6%)が 6 割強。30 代が 68.0%と「苦しさ」最も実感。
- 夫の勤務先の業績は、「不況の影響を受けて厳しい」(61.0%)が 6 割強。業績の下降を受けた家庭の約 93%が生活に影響。主婦の景気回復予想は「2、3 年かかると思う」が半数超。
- 約 8 割の主婦が不況を実感。不況だと感じるときは、「夫の収入で」。
- 3 割強の主婦が手作り弁当を夫に持たせる。7 割弱が「ほぼ毎日」、約 8 割が「節約のため」。
- 夫に内緒の資産(へそくり)を持っている主婦は 34.8%。平均は 337.2 万円、最高は 4,000 万円。  
<昨夏> ある 41.0% へそくり平均額 356.3 万円。

## 夫のこの夏のボーナス手取り額

最も多いのは、「50～75万円未満」(33.6%)で3割強。平均金額は、調査開始以来最低となる65.5万円。30代の平均額は、昨年の約3割減となる47.0万円。

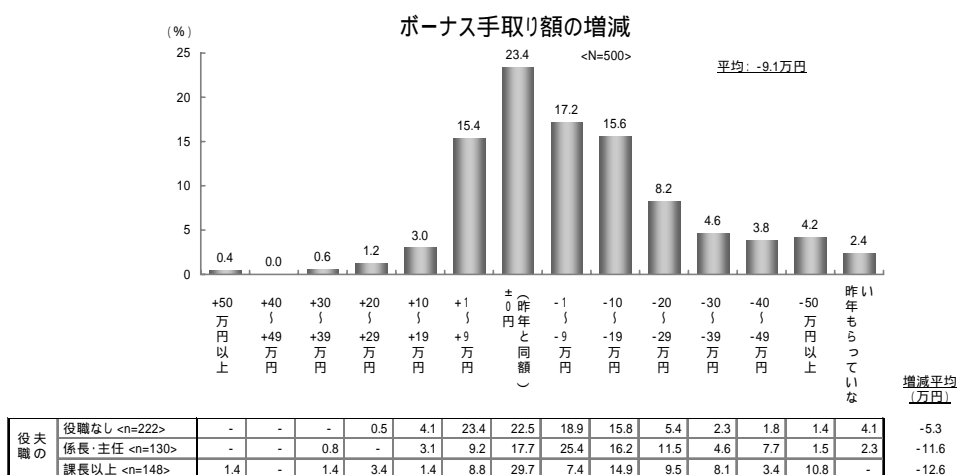


サラリーマン世帯の主婦に夫が受け取った夏のボーナス手取り額をうかがいました。

最も多いのは、「50～75万円未満」(33.6%)が3割強。次いで、「25～50万円未満」(27.0%)、「75～100万円未満」(13.4%)の順となりました。平均手取り額は、65.5万円と昨夏と比較すると、約10万円も減少しています。特に減少が顕著な年代は、30代で昨夏の70.8万円から47.0万円となっています。

## 昨夏と比較したボーナス手取り額の増減

昨年と逆転して、『減った』(53.6%)が半数強。増減平均は-9.1万円。使い道トップは、「預貯金」。



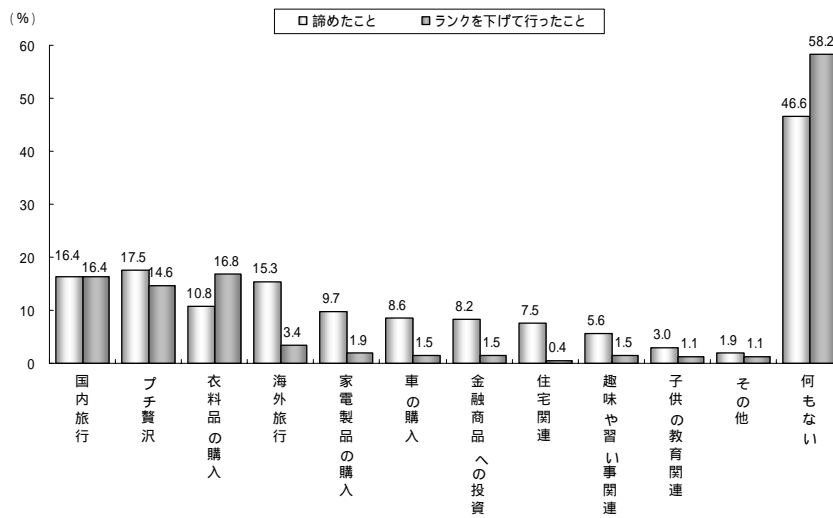
増減に関する質問では、『減った』(53.6%)が半数強を占めており、昨年の26.0%より大幅に『減った』が増加する結果となりました。とくに、夫の役職別では、係長・主任と課長以上は、『減った』(66.9%、54.1%)が半数を超えています。とりわけ管理職には大きくボーナスの減額が響いているようです。

ちなみに、ボーナスの使い道トップ3は、「預貯金」(51.6%)、「生活費の補填」(35.4%)、「ローン・クレジットの支払い」(31.2%)となっています。

## ボーナスが減って“諦めたこと”と“ランクを下げて行ったこと”

ボーナスが減って“諦めたこと”は「プチ贅沢」、「ランクを下げて行ったこと」は「衣料品の購入」。

ボーナスが減って“諦めたこと”と“ランクを下げて行ったこと”【複数回答】



この夏のボーナスが昨年夏より『減った』と回答した人(全体の53.6%)に、予定していたにもかかわらず“諦めたこと”と“ランクを下げて行ったこと”をそれぞれあげてもらいました。

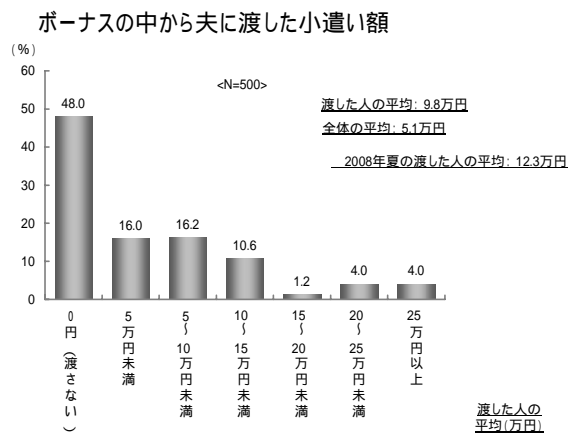
“諦めたこと”が何かしら『ある』(53.4%)人は半数を超えています。諦めたことで最も多いのは「プチ贅沢」(17.5%)で、ほかに「国内旅行」

(16.4%)、「海外旅行」(15.3%)などがあげられています。

また、“ランクを下げて行ったこと”で最も多いのは「衣料品の購入」(16.8%)です。ボーナス額の減少も、最近のファストファッションブームの後押しになっているのかもしれませんが。

## ボーナスの中から夫に渡した小遣い額

渡した人の平均額は9.8万円で、昨夏より約2割カット。夫に小遣いを「渡さない」が増加。



今回のボーナス内から夫に渡す(渡した)小遣い額を聞いたところ、渡した人の平均は、昨夏の平均の12.3万円から、9.8万円へと約2割減少する結果となりました。

加えて、「渡さない」が昨夏の41.0%より48.0%へと増加しています。

夫の年代	20代 <n=79>	30代 <n=159>	40代 <n=123>	50歳以上 <n=139>	渡した人の平均(万円)
0円 (渡さない)	60.8	50.9	48.8	36.7	8.6
5万円未満	19.0	21.4	13.8	10.1	8.8
5万円 ~ 10万円未満	13.9	17.0	15.4	17.3	9.5
10万円 ~ 15万円未満	2.5	5.0	12.2	20.1	11.2
15万円 ~ 20万円未満	-	0.6	0.8	2.9	
20万円 ~ 25万円未満	1.3	1.3	4.9	7.9	
25万円以上	2.5	3.8	4.1	5.0	

年代別では、20代の「渡さない」が約6割となっており、夫の小遣いに

対する財布の紐はかたいようです。

一方で、妻がボーナスの中からもらった額は、平均で7.0万円(もらった人の平均額)となりました。

また、「もらわない(0円)」(73.0%)が7割を超える結果となっています。

今年は多くの家庭で夫婦共に「我慢の夏」となっているようです。

## 臨時ボーナスをあげたいと思う人

スポーツ界のトップは「イチロー」(107件)。芸能界のトップは「オードリー」(18件)。それ以外のトップは「辻井伸行(ピアニスト)」(22件)。

表.臨時ボーナスをあげたい人トップ10【分野ごとそれぞれ1人】

順位	スポーツ界	件数	順位	芸能界	件数	順位	それ以外	件数
1	イチロー	107	1	オードリー	18	1	辻井伸行	22
2	石川遼	21	2	森光子	12	2	自分	6
3	田中将大	11	3	はんにゃ	9	3	橋下徹	5
4	WBC日本代表	7	4	草彅剛	7	4	鳩山邦夫	4
5	太田雄貴	6	"	島田紳助	7	5	母親	3
"	入江陵介	6	6	SMAP	6	"	舩添要一	3
7	原辰徳	5	"	水嶋ヒロ	6			
"	上村愛子	5	8	木村拓哉	5			
"	浅田真央	5	"	嵐	5			
10	クルム伊達公子	4	10	江口洋介	4			
"	内藤大助	4	"	佐藤隆太	4			
			"	間寛平	4			

今年大いに活躍している人やグループで、主婦が臨時ボーナスをあげたいと思う人を「スポーツ界」、「芸能界」、「それ以外」の3分野から自由にあげていただきました。

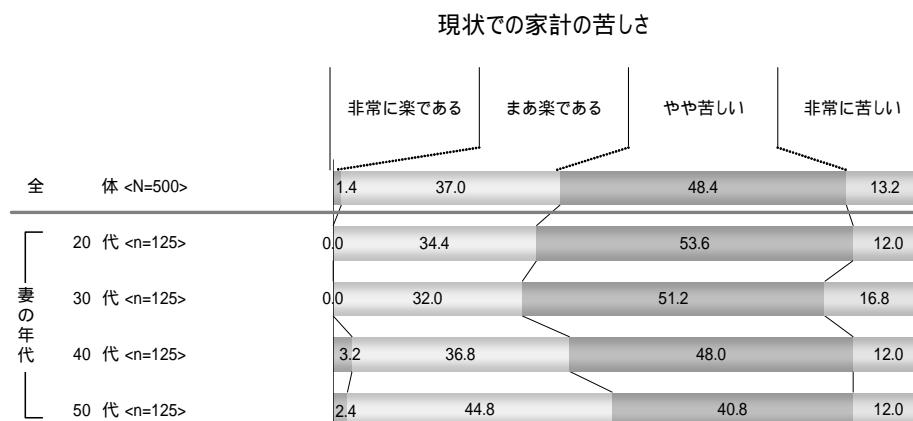
スポーツ界では第1位に「イチロー」(107件)があげられており、全体でも他を圧倒してのトップとなっています。米大リーグでのさらなる活躍にエールを送る結果となりました。

芸能界では第1位に「オードリー」(18件)がトップ。

それ以外の分野では「辻井伸行(ピアニスト)」(22件)が最も多い結果となっています。

## 現状での家計の苦しさ

『苦しい』(61.6%)が6割強。年代別では、30代「苦しい」が約7割。

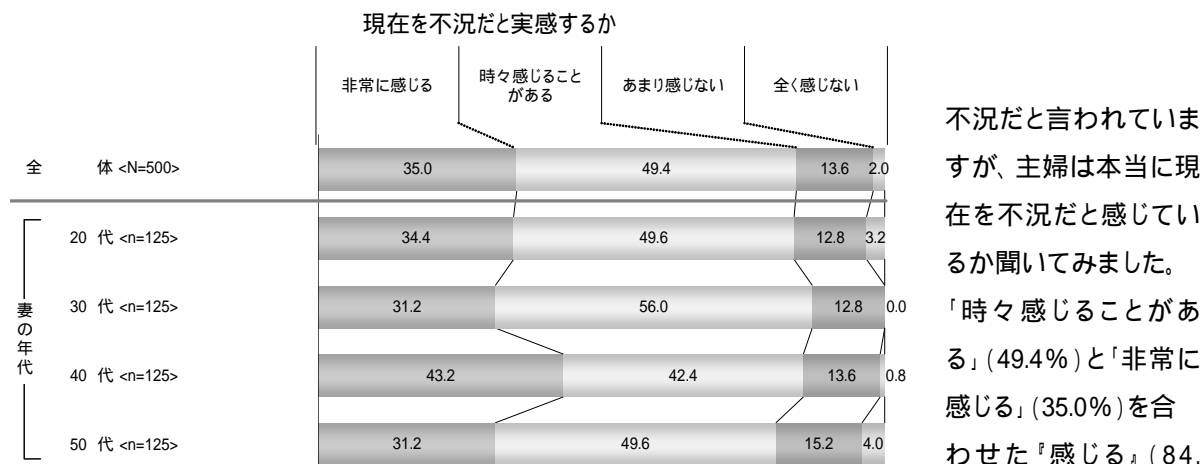


サラリーマン世帯の家計の現状に関する意識を聞きました。

「やや苦しい」(48.4%)が半数弱を占めており、「非常に苦しい」(13.2%)を合わせると『苦しい』(61.6%)が6割強となり、「非常に楽である」(1.4%)と「まあ楽である」(37.0%)を合わせた『楽である』(38.4%)を大きく上回っています。年代別では、30代の『苦しい』が約7割と、他の年代を大きく上回っています。家計のやりくりをしている世代にとってかなり厳しい様子がうかがえます。

## 主婦の不況の実感

現在を不況と『感じる』(84.4%)が圧倒的。“夫の収入で”不況を実感するがトップ。

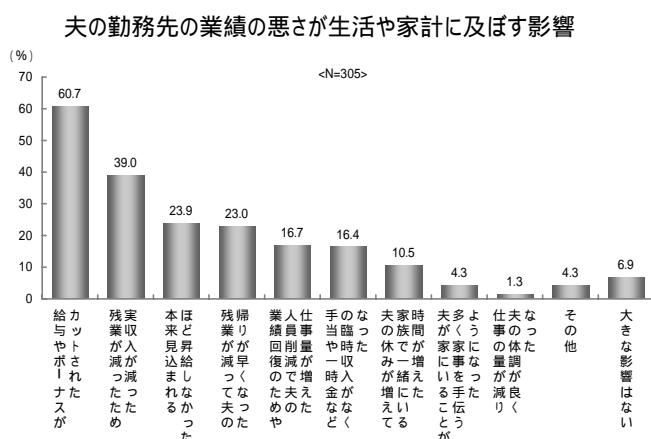


さらに、不況を実感しているという人に、どんな時に不況だと感じるのかを自由にあげてもらったところ、「給与が下がった」(63件)「ボーナスが減った」(42件)など“夫の収入で”実感することが最も多い結果となりました。

次いで、「収入に対して物価が高い」(25件)など“生活の中で”、「不況に関するニュースを見て」(21件)など“報道で”感じる結果となっています。

## 夫の勤務先の業績と勤務先の業績の悪さが生活や家計に及ぼす影響

夫の勤務先の業績は、「不況の影響を受けて厳しい」(61.0%)が6割強。業績の下降を受けた家庭の約93%が生活や家計に影響。景気回復には「2~3年かかると思う」が最も多い。



夫の勤務先の業績の悪さは、サラリーマン世帯の生活や家計にどのような形で影響を及ぼしているのでしょうか。業績が下降していると回答した人に聞いたところ、93.1%もの方が『何らかの影響を受けている』と回答する結果となりました。

具体的には、「給与やボーナスがカットされた」(60.7%)が最も多くあげられています。その一

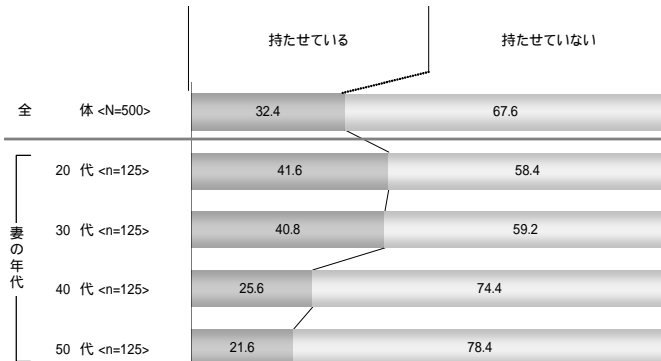
妻の年代	給与カットされた	残業収入が減ったため	本ほど昇給しなかった	残業が減ったため	業績回復が遅い	手当や一時金が減った	家族の休みが増えた	夫が多量に休んだ	夫が家にいる時間が減った	夫の体力が減った	その他	大きな影響はない
20代 <n=72>	54.2	48.6	26.4	29.2	23.6	6.9	15.3	4.2	-	5.6	5.6	0.0
30代 <n=79>	62.0	45.6	24.1	20.3	20.3	21.5	10.1	6.3	1.3	3.8	6.3	0.0
40代 <n=82>	65.9	39.0	23.2	26.8	13.4	17.1	11.0	3.7	2.4	1.2	6.1	0.0
50代 <n=72>	59.7	22.2	22.2	15.3	9.7	19.4	5.6	2.8	1.4	6.9	9.7	0.0

方で、「残業が減って夫の帰りが早くなった」(23.0%)や、「夫の休みが増えて家族と一緒にいる時間が増えた」(10.5%)などがあげられています。業績の下降によって、少なからず生活や家族との関係にも変化が起きているようです。また、景気の回復予想時期を聞いたところ、「2~3年かかると思う」(51.4%)が最も多くなっています。一方で、『1年以内に回復』(28.2%)するとの予測も見られました。

## サラリーマンの昼食実態

持たせている人(32.4%)の4割強が、去年から今年で“手作り弁当”に転向。  
7割弱は「ほぼ毎日」、約8割は「節約のため」持たせる。

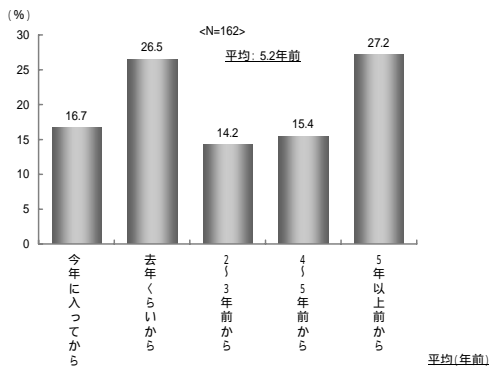
### 夫の昼食に“手作り弁当”を継続的に持たせているか



サラリーマンである夫に、昼食として“手作り弁当”を継続的に(週に1回以上欠かさず)持たせているかどうか聞きました。

3割強が「継続的に持たせている」(32.4%)という結果になりました。とくに20代30代では、「継続的に持たせている」が4割を超え、他の年代より“手作り弁当”所持率は高くなっています。

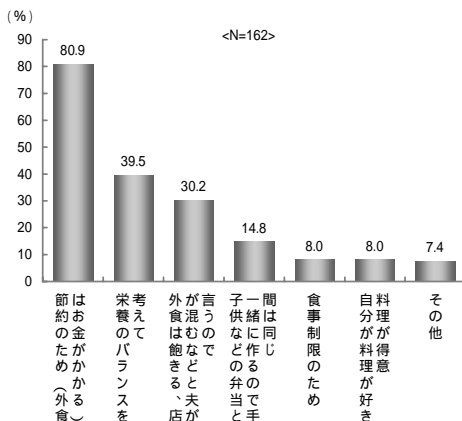
### 夫に“手作り弁当”を持たせはじめた時期 (持たせ始めた時期)



妻の年代	今年に入ってから	去年から	2~3年前から	4~5年前から	5年以上前から
20代 <n=52>	23.1	26.9	25.0	19.2	5.8
30代 <n=51>	15.7	23.5	13.7	15.7	31.4
40代 <n=32>	15.6	31.3	6.3	9.4	37.5
50代 <n=27>	7.4	25.9	3.7	14.8	48.1
妻の職業	正規有職 <n=35>	パート <n=38>	専業主婦 <n=89>		
	25.7	42.9	5.7	11.4	14.3
	7.9	28.9	26.3	10.5	26.3
	16.9	19.1	12.4	19.1	32.6

さらに、“手作り弁当”を持たせる頻度を聞いたところ、「ほぼ毎日」(67.9%)が7割弱を占めて圧倒的です。また、“手作り弁当”を持たせているという人に、いつ頃から持たせるようになったのか聞きました。「去年くらいから」が26.5%、「今年に入ってから」が16.7%と、不況と言われるようになった『去年から今年』(43.2%)が4割を超える結果となりました。年代別に見ると、「今年に入ってから」は年齢の若い人ほど多く、20代(23.1%)は2割強と他の年代を上回っています。また、正規有職は、『去年から今年』(68.6%)が7割弱を占めており、夫婦で“手作り弁当”に転向した家庭も多そうです。

### 夫に“手作り弁当”を持たせる理由



妻の年代	節約のため(外食)	栄養のバランスを	外食は飽きると、夫が言うので	子供は同じ弁当で手	食事制限のため	自らが料理が好き	その他
20代 <n=52>	90.4	38.5	25.0	11.5	9.6	7.7	5.8
30代 <n=51>	82.4	27.5	25.5	15.7	5.9	2.0	11.8
40代 <n=32>	78.1	40.6	34.4	18.8	6.3	12.5	6.3
50代 <n=27>	63.0	63.0	44.4	14.8	11.1	14.8	3.7

さらに、夫に弁当を持たせる理由を聞きました。年代別では、「節約のため」は年齢の若い人ほど多く、20代(90.4%)では9割となっています。他の年代も「節約のため」が一番多い結果となりました。

また、手作り弁当になったことで、夫の小遣いに変化はあったのでしょうか。

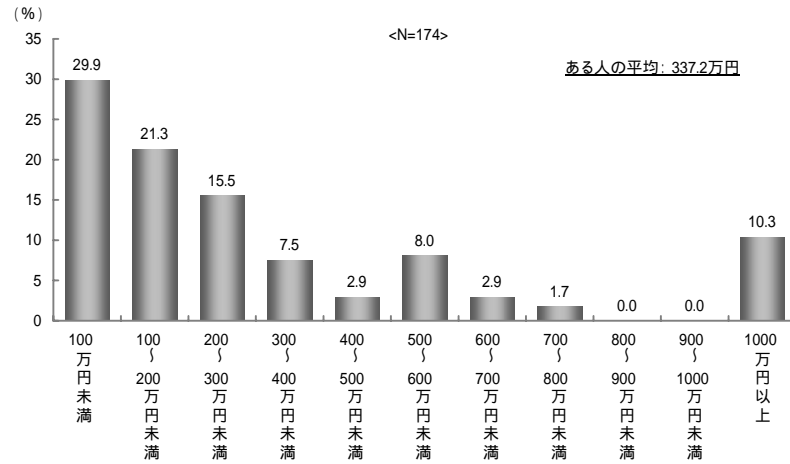
弁当を持たせるようになって夫のお小遣いから昼食代の分を減らしたか聞いたところ、2割弱が「減らした」(18.5%)と回答。とくに、年齢の高い人ほど「減らした」が多く、50代(33.3%)では3割強を占め、夫の小遣いにも少なからず影響がでているようです。

節約にもなって、栄養のバランスもよい手作り弁当は、一石二鳥の節約策として今後も増えていきそうです。

## 夫に内緒にしている資産(へそくり)

“へそくり”「減った」が 45.2%、平均は 337.2 万円。減少した人の 3 割強が「不況の穴うめに使った」。

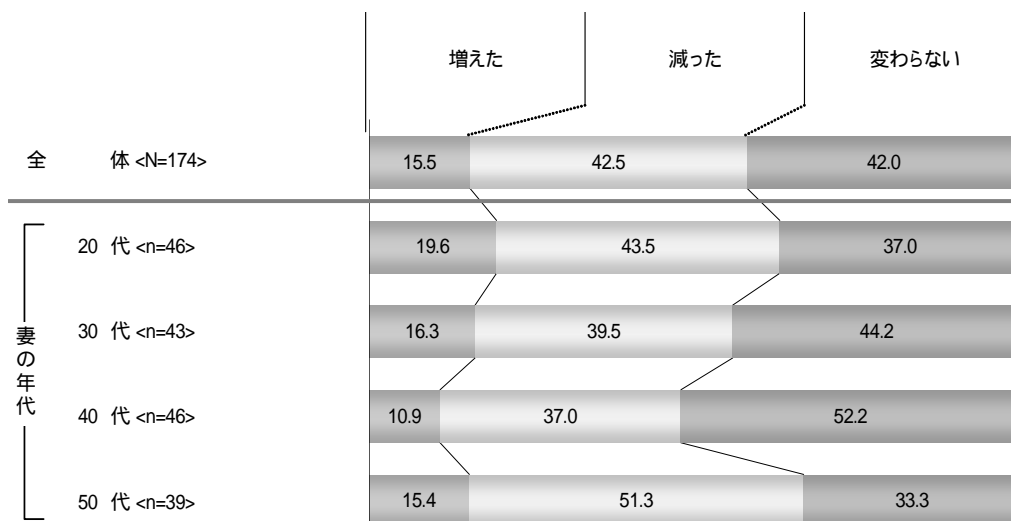
夫に内緒にしている資産(へそくり)



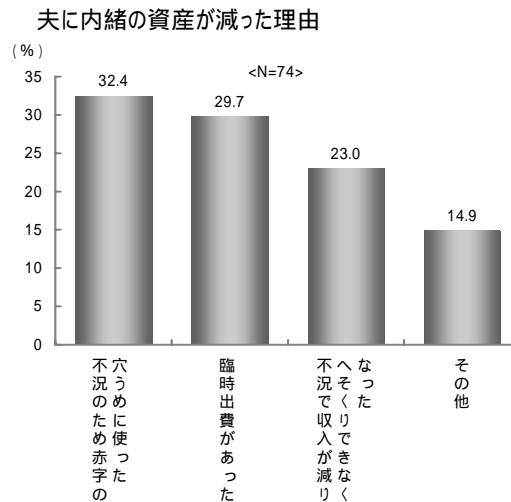
妻の年代	資産額 (万円)											ある人の平均(万円)	08夏の平均(万円)
	20代	200万円未満	200万円～300万円未満	300万円～400万円未満	400万円～500万円未満	500万円～600万円未満	600万円～700万円未満	700万円～800万円未満	800万円～900万円未満	900万円～1000万円未満	1000万円以上		
20代 <n=46>	37.0	28.3	13.0	4.3	2.2	2.2	4.3	2.2	-	-	6.5	208.7	139.6
30代 <n=43>	39.5	18.6	14.0	9.3	7.0	9.3	-	2.3	-	-	-	180.4	419.0
40代 <n=46>	28.3	21.7	10.9	6.5	2.2	13.0	-	2.2	-	-	15.2	422.4	257.4
50代 <n=39>	12.8	15.4	25.6	10.3	-	7.7	7.7	-	-	-	20.5	561.3	610.2

夫に内緒の資産(へそくり、結婚する時に持ってきたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、実家の財産分与など“ご主人に話していないあなた名義の資産”)を聞いたところ、「ある」が 34.8%で、調査開始以来、初めて 4 割を下回る結果となっています。また、資産額を聞いたところ、平均額は 337.2 万円となり、昨年の 356.3 万円より約 19 万円の減額となっています。中でも、30代のへそくりは昨夏より半減しており、大きな痛手をうけているようです。

夫に内緒の資産の増減



さらに、資産の増減に関して聞いたところ、「減った」(42.5%)と「変わらない」(42.0%)が 4 割強、「増えた」(15.5%)は 1 割強となる結果となりました。妻の年代別に見ると、50代は「減った」(51.3%)が半数強を占めており、他の年代を大きく上回っています。



妻の年代	20代 <n=20>	30代 <n=17>	40代 <n=17>	50代 <n=20>
不況のため赤字の穴うめに使った	45.0	41.2	29.4	15.0
臨時出費があった	40.0	23.5	29.4	25.0
不況でへそくりが減りなくなった	15.0	23.5	17.6	35.0
その他	-	11.8	23.5	25.0

今年に入って夫に内緒の資産が減ったと回答した人に、減った理由を聞きました。最も多いのは「不況のため赤字の穴うめに使った」(32.4%)で3割強を占めています。以下、「臨時出費があった」(29.7%)が続いています。必死に貯めたへそくりも、この不況の前では使わざるを得ない状況に置かれているようです。

【本件に関するお問い合わせ先】  
 損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社  
 広報室 担当: 杉山・高月  
 〒160-0023 新宿区西新宿 6-10-1 日土地西新宿ビル  
 TEL: 03-5437-9026 URL: <http://diy.co.jp>